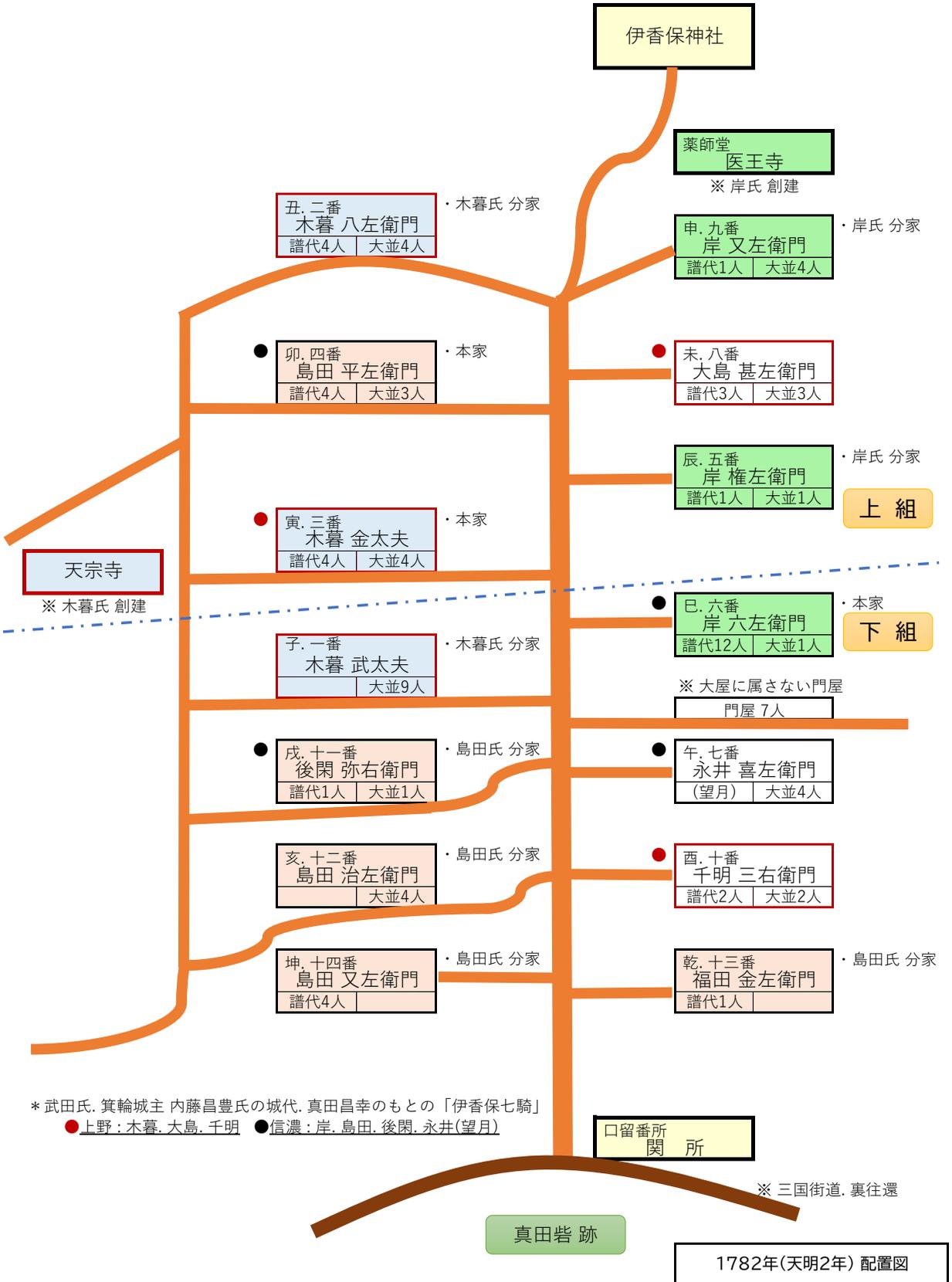


# 伊香保史年表



オフィスSEKI

# 伊香保・石段街 大屋配置図



\* 武田氏. 箕輪城主 内藤昌豊氏の城代. 真田昌幸のもの「伊香保七騎」

● 上野: 木暮. 大島. 千明 ● 信濃: 岸. 島田. 後閑. 永井(望月)

## 刊行にあたって

人が住んでいるすべての土地には、必ず歴史があります。しかし、書かれない歴史は必ず忘れられます。記録も記憶も年々失われていく一方です。

自分たちの歴史は自分たちの手で残さなければなりません。

この伊香保史年表に記載されている歴史は、小中学校の学区ひとつ分ほどの小さな地域の出来事ばかり。いわばご近所史とでもいうべきミニマムな郷土史です。

自分たちの郷土の歴史を知りたければ、この薄い冊子のページをめくるだけで事足ります。誰でも手軽に郷土の歴史をたどることができます。

私たちは、年表に記されたすべての先人たちの事跡の結果として、いま現在に居ます。これまでのあり方を振り返ることは、これから先の将来を考えることでもあります。郷土史年表は単に過去を記録するだけのものではありません。これから先の将来を考えるのに欠かせない史料でもあるのです。

未来が見えなくなったら、過去を振り返ってみましょう。きっと先人たちが残したヒントがあるはずです。

このたび、私たちはこのミニマムな郷土史年表をつくるにあたって、歴史の専門家や学者でなくても誰でもが、郷土の歴史を容易に年表化できるフォーマットを作りました。これを活用すれば、先行文献から歴史的情報を抽出し、さらに新しい時代の情報を加えるだけで、世界で唯一の自分たちの郷土史年表ができあがります。

日本国中の小さなふるさとで、こうした小さな郷土史年表が編まれ、自分たちの歴史を見つめ直し、自分たちの手で後世に残す文化的営為が広まることを願ってやみません。

オフィスSEKI

時代	国 史	政 治	文 化
先 史 時 代	縄文式文化時代 弥生式文化時代 ・村の発生、小国家できる 紀元前1世紀頃 ・倭、小国分立する 57年 ・倭の奴国王、金印を受ける 2世紀 崇神の子活目尊（垂仁天皇）即位 4世紀 ヤマト政権の統一進む 5世紀 倭の五王、巨大古墳築造	・新生代の第三紀層の頃、榛名山爆発する ・その後、外輪山の掃頭（かもん）、鬘櫛（びんぐし）、烏帽子（えぼし）、臥牛（がぎゆう）、磨墨（するす）、天目山、天神峠ができ、次いで中央火口丘の榛名富士、蛇ヶ岳、ひともっこ等が噴出した ・最後に、寄生火山の相馬山、ニッ岳、水沢山ができる（伊香保誌） ・先住民住居するか ・新石器文化あったか（口碑） ・アイヌ人住居説（口碑） ・垂仁2年 伊香保の湯発見される（口碑）	・赤城の竜神の唾佐羅摩女と伊香保の沼の竜神庵摩羅片女と沼を争い、西から毛垣を取って投げ、東から軽石を利根川の西へ投げた（神道集） ・「ひともっこ」と巨人の話（伝説） ・イカホの語源。アイヌ語のイカホップ（あたたかい湯）とも、ユカワ（湯川）、イカメシキイワオ、イカホホ、イイカオ（好い顔）とも言う（大日本地名語彙、青柳氏／尾崎喜左雄氏説）。イカツチの峰、ミカボ山からとも言う（伊香保誌）
	500年頃 ・1回目のニッ岳噴火、20～30年後、2回目の噴火あり	500年頃 ・榛名山最後の噴火ニッ岳爆発、伊香保一帯に平均2m以上灰を積もらせすべて埋没	
飛 鳥 時 代	538年 ・仏教公伝 ・この頃、祖先崇拜の気運盛ん 物部氏と抜鉾神社 上毛野氏と赤城神社	538年 ・この頃、阿利真公（ありまのきみ）、現在の有馬周辺に伊香保神社創建か（尾崎氏論文） ・ニッ岳の火山活動が収まるか	
	587年 ・蘇我馬子、物部守屋を滅ぼす 593年 ・聖徳太子が推古天皇の摂政に 607年 ・遣隋使派遣		
代		615年（推古23年） ・勅願寺として水沢観音創建（水沢寺縁起）	
	630年 ・第1回遣唐使派遣		
	645年 ・大化改新 ・諸国に国司、郡司を置く	645年（大化元年） ・この頃、伊香保神社、国司の保護下、現在の有馬周辺において隆盛（新撰姓氏録）	
	673年 ・天武天皇即位		
	701年 ・大宝律令できる		
奈 良 時 代	710年 ・平京城遷都（奈良時代はじまる） 712年 ・古事記できる	710年（和銅3年） ・現在の湯元に温泉始まるか（尾崎氏論文）	
	720年 ・日本書紀できる ・その後、万葉集できる	720年（養老4年） ・この頃、柄階大将知隆（知笠）が水沢観音を焼き、行基が再建（口碑、水沢寺縁起） ・この頃、伊香保の地名は榛名山一帯の総称であった ・伊香保の名が、万葉集により諸国に伝う	720年（養老4年） ・万葉集東歌中に9首、伊香保を詠んだ歌が載る（万葉集） ・伊香保の文字色々用いられる（伊香保誌） ・伊香保は雷、沼、風、かきつばたなどで知られる（万葉集）
平 安 時 代	784年 ・長岡京遷都		
	794年 ・平安京遷都（平安時代はじまる）		

時代	国史	政治	文化
平	804年 ・最澄、空海入唐		
	805年 ・最澄、天台宗を開く		
	806年 ・空海、真言宗を開く		
		824年（天長元年） 4月 伊香保神社、現在地（上ノ山の中腹） に遷り、伊香保一帯を領有し礎を築く。社殿廣大（延喜式神祇卷）	824年（天長元年） ・この頃、最澄、空海来るの伝説がある（水沢寺縁起）
		835年（承和2年） ・伊香保神社、名神となる（続日本紀）	
		839年（承和6年） ・伊香保神社従五位下を贈られる（続日本紀）	
		850年（喜祥3年） ・船尾滝附近に聖国寺建立（名跡志）	
	858年 ・藤原良房、初の人臣摂政		
		863年（貞観5年） ・伊香保神社と関係あると思われる若伊香保神社の名が初めて載る（文徳実録） ・この頃、伊香保神社を中心としてその分霊を祀る諸社が相次いで建立される	
	887年 ・藤原基経、関白となる		
894年 ・遣唐使廃止			
901年 ・藤原道真、太宰府左遷			
時	905年 ・古今和歌集成 ・この頃上野十二社定められる	905年（延喜5年） ・この頃、伊香保は諸国の名所の一つとなる ・伊香保神社は上野三ノ宮として威を示す。神社が繁栄し、現在の石段街の礎となる。門前町が形成されるか	905年（延喜5年） ・古今集中に伊香保を詠んだ歌が見える（壬生忠岑）
	927年 ・延喜式完成	927年（延長5年） ・この頃、伊香保神社は名神大座となる（延喜式神祇卷）	
代	935年 ・承平天慶の乱 ・地方に武士起る		
	985年 ・往生要集成		
	1001年頃 ・枕草子成る		
	1010年頃 ・源氏物語成る		
	1017年 ・藤原道長、太政大臣に ・藤原氏全盛		
	1086年 ・白河上皇の院政始る ・この頃、源頼家武士の棟梁として威を張る		

時代	国 史	政 治	文 化
平 安 時 代	1156年 ・保元の乱		
	1160年 ・平治の乱		
	1167年 ・平清盛、太政大臣に		
	1185年 ・平氏滅亡		
		1191年（建久2年） ・後鳥羽上皇、榛名神社へ院宣（榛名神社古文書）	1191年（建久2年） ・この頃、夫木集中には19首伊香保を詠んだ歌が見える＝顕家、行為、家隆、知家、行能、為相、俊成女、兵衛内侍、忠定、範宗、道堅、顕朝、肖柏、俊頼、読人知らず（伊香保誌、日本文学辞典）
鎌 倉 時 代	1192年 ・源頼朝、征夷大將軍に（鎌倉時代はじまる）		
		1202年（建仁2年） ・後鳥羽上皇、伊香保神社に祈願する ・この頃より律令制崩れ、国司の保護下にあった伊香保神社暫く衰え、武の神を祀る榛名神社が武士の保護下に台頭	
	1205年 ・新古今和歌集成		
			1216年（建保4年） ・拾遺愚草中に藤原定家の伊香保を詠んだ歌1首が見える
	1219年 ・北条氏執権政治始る		
	1221年 ・承久の乱		
		1256年（康元元年） ・長尾景熙、白井荘入部（長尾家記録）	
	1274年 ・文永の役で元軍来襲		
		1275年（建治元年） ・龜山上皇、伊香保神社に祈願し正一位贈与	
	1281年 ・弘安の役で元軍再来		
1333年 ・鎌倉幕府滅ぶ			
1334年 ・建武新政			
室 町 時 代	1338年 ・足利尊氏、征夷大將軍に（室町時代はじまる）		
		1362年（貞治元年） ・頼印、大僧頭となり榛名神社、幕府の尊崇を受け盛んになる（頼印僧正行状記）	
	1392年 ・南北朝統一		
	1401年 ・第1回遣明船派遣		

時代	国 史	政 治	文 化	
室	1428年 ・ 正長の徳政一揆			
	1432年 ・ 上杉憲実、足利学校再興			
		1438年（永享10年） ・ 足利持氏の執事上杉憲実、関東管領足利持氏に追われて白井城の長尾景仲に頼る		
		1439年（永享11年） ・ 長尾景仲、將軍の命を受け上杉憲実と共に足利持氏を攻め滅ぼす		
	1467年 ・ 応仁の乱始まる（～77年）			
		1468年（応仁2年） ・ 白井城の執事長尾清景、伊香保支配。豪族千明氏が配下となる ・ この頃、伊香保は現在の湯元の地に僅かばかりの住民が住んでいただけであった（仁泉亭記） ・ これより約120年間、長尾氏の伊香保支配が始まり、伊香保神社の実権全く無くなる		
		1485年（文明17年） ・ この頃、木暮氏、大島氏が長尾氏の配下となるか	1485年（文明17年） ・ 温泉場「伊香保の湯」の名が「北国紀行」に記載される	
	1495年 ・ 北条早雲、小田原に移る			
		1511年（永正8年） ・ この頃、伊香保は中風に利く名湯として知られる（宗祀終焉記） ・ 水沢観音、兇徒の手により焼失する（水沢寺縁起）		
		1522年（大永2年） ・ 水沢観音再び焼失。ついにその大伽藍は永久に失われる（水沢寺縁起）		
町	1531年 ・ 一向一揆起る			
	1543年 ・ 鉄砲伝わる			
	1549年 ・ キリスト教伝わる			
	1560年 ・ 桶狭間の戦い			
	1568年 ・ 織田信長、京都に入る			
	1570年 ・ 武田信玄、白井城などを攻撃する。家臣内藤昌豊に白井城など、その支配を命ず（群馬郡誌）	1570年（元亀元年） ・ 伊香保の北、湯中子地区の沼尾川沿いに、内藤昌豊の命で寄居（湯の小屋砦）を築く（伊香保誌）		
	1572年 ・ 上杉、武田、北条入り乱れて戦う	1572年（元亀3年） ・ 武田方の真田幸隆が白井城、岩井堂城、柏原城を攻略落城させる		
	1573年 ・ 武田信玄没す ・ 室町幕府滅ぶ	1573年（天正元年） ・ 上杉謙信が内藤昌豊を破り、再び長尾氏を白井城に戻す（群馬郡誌） ・ 伊香保は内藤昌豊方の真田幸隆が領有。従前の千明氏、木暮氏、大島氏に加え、信濃方の岸氏、島田氏、望月氏が配下に加わるか	1573年（天正元年） ・ この頃、伊香保の湯は戦傷の武士の治療場に利用されたと想像される	
	時			
代				